会報JAMT
JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS
発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者　宮島喜文
編集責任者　深澤恵治
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722　FAX (03) 3768-6722
ホームページ https://www.jamt.or.jp

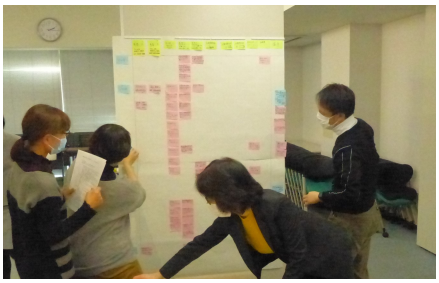
P1 令和４年度 医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）開催報告
P2 コロナ禍での組織運営及び第４次マスタープランの検証の答申書について/臨地実習指導者講習会「１施設１人」縛りを解除
P3～P4　訃報故～佐藤乙一元会長を偲んで～
P5～P6 全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 第３回
P7 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

令和4年度 医療安全管理者養成講習会(アドバンスコース)開催報告

令和４年度　医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）はテーマを「医療安全管理技術のスキルアップ」とし、医療現場における安全管理の現状について情報共有するとともに、より実践的な医療安全管理手法の活用方法について学ぶことを目的に開催しました。

本年度はオンデマンド配信の受講、ライブ配信と現地開催への参加を修了の条件として実施し、今回は令和４年12月16日（金）に行われた現地開催の感想を紹介いたします。

参加人数は８名と少人数でしたが、現場での事故防止や安全管理に活用できる情報や技法を吸収していただける内容となりました。



実習の様子

【オンデマンド・ライブ配信】

講義１「リーダーシップ論」（120分）
千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副院長相馬 孝博
講義２「業務の見える化」（60分）
株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 根本 誠一
講義３「受講生３分プレゼンテーション（受講後の実績報告）」（20分）
講義４「受講生３分プレゼンテーション視聴後のディスカッション」（１月21日・22日　90分・Zoomによるライブ配信）
講義５「タスクシフティング8 項目のリスク管理」（120分）
医療安全委員

【現地開催】

「ImSAFER アドバンスコース（講義）」（210分）
ImSAFER 研究会インストラクター 春日 道也
ファシリテータ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 橋本 礼子
「ImSAFER アドバンスコース（実習）」（210分）
ImSAFER 研究会インストラクター 春日 道也
ファシリテータ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 橋本 礼子
（敬称略）

～　受講者からの声　～

杏林大学医学部付属病院　米山 里香

今回、医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）に参加して今後の業務に活かせると実感しました。自施設では検査部内での事故防止対策委員会の委員長として普段検査部内で起きたインシデントや医療過誤、患者からのクレーム等に関して月１回開催の委員会で原因追求と是正計画を考案しています。それら事象ではまず、当事者に原因を報告書に記載してもらうのですが多くの場合で「思い込み」や「手順はあるが失念した（手順の逸脱）」「伝達を怠った（コミュニケーション不足）」となっている。このような場合、是正を考える際には当該者に対する是正を考える傾向にありました。

今回の医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）参加で分析する過程で「人はミスをする」という前提があり、患者への影響を最小限に抑えるための措置を考えることが重要であると教わりました。事象が起きる過程として、スイスチーズのすり抜けをなくすように、当該者以外が事故を防ぐことができるという考え方も大切であると気付きました。

加賀市医療センター　加藤 委久美

医療安全管理者養成講習会ベーシックコース受講後３年が経過し、コロナ禍ということもあり来年に受講しようか悩みましたが、今回アドバンスコースを受講しました。人数が８人とやはりコロナの影響もあるのか少数での講習会でした。

午前はエラーの発生メカニズム・分析手法・背後要因の探り方・エラー対策の考え方などを講義で学び、午後から実際に事例を使って実習をしました。時系列事象関連図を作るのに手間どり、何度も時間延長をお願いしてしまいました。

インストラクターやファシリテーターの先生方にはいろいろアドバイスをいただき、とても助かりました。時系列事象関連図を作ることでエラーの発生が分かりやすく分析しやすくなり、今後自病院でもエラー発生した時にこの関連図を作り分析していければと思いました。また対策もできるだけ人より環境でエラーが起きないように考えることなど、今回の講習会を今後の医療安全活動に活かしたいと思います。

コロナ禍での組織運営及び第4次マスタープランの検証の答申書について

「コロナ禍での組織運営及び第４次マスタープランの検証」WG（丸田秀夫委員長）は、新型コロナ禍を踏まえた組織運営や第４次マスタープランの検証などに関する答申をまとめ、１月14日付で宮島喜文会長に提出しました。答申書の前段では新型コロナウイルスの再三にわたる拡大により翻弄された技師会運営について、多面的に行われた検証結果とともに、今後のウイズコロナを見据えた技師会運営への提言が盛り込まれ、後段の第４次マスタープランの検証では、計画に盛り込まれた「組織・運営」「制度・法制の充実、職能意識、地位の向上」など各項目の達成度合いを総括しています。今後、作成される第５次マスタープランにあたっては、第４次プランが作成された2013年以降の制度変更や新型コロナ禍といった取り巻く環境の変化を踏まえ、次世代を担う若手技師の視点も重視しながら作成する予定です。

答申書を受け、宮島会長は「執行理事を中心にして自らの担当業務を検証し、具体的な課題を整理していただいた。既存委員会で対応できるテーマは来年度から取り組み、場合によっては新たなWGの立ち上げも含めて検討する」との方針を示しました。

（代表理事副会長　丸田 秀夫）

臨地実習指導者講習会「1施設1人」縛りを解除

詳細・お申込みは当会HPトップ画面に表示さるこちらのバナーからご確認ください

臨地実習受け入れ施設に臨地実習指導者を全国迅速に配置するため、１施設からの受講者を１人に制限してきましたが、受入施設（約1,200施設）のうち１月17日現在で1,000施設以上に指導者が配置される見込みになったことを受けて受講制限は必要ないと判断し「１施設１名」縛りを解除いたしました。今後は５年以上の臨床検査技師としての実務経験の他、施設長（所属長）による実務経験証明書の提出（システムへのアップロード）があれば受講可能です。

本講習会はWeb研修システムを用いた510分の「座学」と開閉会の挨拶等を含めた470分の「ワークショップ（当面はWebによるグループワーク）」の２部構成で、ワークショップは座学履修者が対象です。座学は無料、ワークショップの受講料は3,000円ですが、2023年度末（2024年３月31日）までは１施設１人、１回に限って一般社団法人日本臨床検査学教育協議会からワークショップ受講料の助成を継続いたします。是非、多くのご施設の方々にご受講してもらえればと考えております。

（担当専務理事　深澤 恵治）

訃報

当会元会長 佐藤乙一氏(享年101歳)が、令和4年12月12日に逝去されました。
会員各位にお知らせいたしますと共に、ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

故 佐藤乙一 元会長を偲んで

故　佐藤乙一氏は、当会の前身である日本衛生検査技師会の常任理事に昭和28年に選出されて以来、第６代社団法人日本臨床衛生検査技師会会長を務めた昭和54年４月から昭和57年３月までの長きに亘り、日本臨床衛生検査技師会を牽引されました。

氏は昭和38年に役員に選出されて以来、法規部を担当し、多くの功績を残されました。副会長時代の昭和45年には、衛生検査技師法から臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律（昭和45年５月21日法律第83号）の改正のためにご尽力されました。また、昭和46年には、改正法律施行に伴い、第１回臨床検査技師国家試験が実施されることになり、そのため衛生検査技師は厚生大臣が指定した72時間に及ぶ「臨床検査技師国家試験受験資格取得指定講習会」を受講する必要があり、副会長として、全国各地で開く講習会の主催者としてその責任を果たされました。さらに、昭和46年８月22日に、臨床検査技師国家試験が全国一斉に行われ、97％余という合格者を出したことは副会長として高く評価されました。また、昭和53年度には検査業務上の事故に対する共済制度が当会に創設され、51年度から共済制度委員会の委員として制度の企画に貢献されています。昭和55年度には、臨床衛生検査技師法の一部改正により、衛生検査所の登録を任意制から義務制に変更、並びに立入検査等の指導監督の強化が行われ、副会長時代、会長時代に法改正運動を積極的に行うなどご尽力されました。外国交流においても、昭和55年の会長時代に第１回日韓臨床検査技師会代表者会議を開催するなど積極的な交流を行い、日韓交流の功績者として後に表彰されています。昭和57年４月に会長職を後進に道を譲るべく退かれましたが、その後も顧問として顧問会議に参加され法改正等に向けご尽力くださいました。

一方、氏はリーダーとしての人望も厚く、優れた行動力と広い見識を持って、会をまとめ、各種事業の企画・立案・実行に至るまで、強力な指導力で陣頭指揮に当たられました。周囲の人に対する思慮も深く、医療機関をはじめ関係団体の多くの方々から信頼と信望も厚い方でした。

なお、当会と東京都臨床検査技師会との合同で「故佐藤乙一先生を偲ぶ会」を３月25日（土）開催する予定としております。

心からご冥福をお祈りします。

合　掌

日臨技　代表理事会長　宮島喜文

◇ 日本臨床衛生検査技師会　役員歴等

昭和28年4月～昭和29年3月　常任理事
昭和38年4月～昭和39年3月　渉外担当役員
昭和39年4月～昭和40年3月　常務理事
昭和40年4月～昭和49年3月　副会長
昭和54年4月～昭和57年3月　会長

◇ 表彰等

昭和51年　第11回 小島三郎記念技術賞受賞
昭和58年　臨床衛生検査業務功労者　厚生大臣表彰受賞
昭和60年　勲五等瑞宝章受章
平成 5年　社団法人日本臨床衛生検査技師会永年職務精励者表彰受賞
平成20年　日韓交流30周年記念表彰受賞

次の文章は、生前に佐藤乙一元会長より頂戴していた、会員の皆様への手紙です。手書きでしたが、内容を原文のまま掲載いたします。

日臨技の皆さんへ

日臨技第6代会長　佐藤乙一

思い起こしますと、私は昭和27年7月現日臨技の基礎団体日本衛生検査技師会の創立総会場に居ました。場所は名古屋。参加者は口八丁の方がたばかり約50名、大混乱の後曲がりなりにも議案は成立しました。これらの経過はいくたびか出された技師会史に詳しく掲載されています。

私もその中の1人として活動してきましたがお互いに寄る年波には勝てずポツリポツリと天国へと立ってゆきました。

この1人私もこのたびの検査で「大腸がん」の診断がつきました。主治医の先生は言いました「本職の人にウソを言ってもすぐバレルから」と当初から包みかくさずX-Pを見せながら説明して下さいました。

「これまで何の前ぶれもなかったのか」の問に「何か今までとは違う」と思ったことはあったことには気がついていたのです。例えば「便が細くなった」、「色が黒みがかっている」など、だから自ら実施してみました。人差し指に石けんをたっぷり塗って肛門に挿入。スリルと入って抵抗なし。ところがこれは僅か10cm足らずで目的の「がん」は15cmのところにあり誰にもわからなかったのです。「神のみぞ知る」とはこのことでしょう。

私の日臨技会長時代は短く、副会長が長期に及びました。その理由は当時私は厚生技官として厚生省にも籍があったからです。でも係は臨床検査技師担当ではなかったので日臨技の3役まで就任することができましたが、見る人によっては「なれあい」を心配する人もいたでしょうから、むしろ「縁の下の力」になったつもりです。

立派な会になりました。ゼロ、無毛地帯から出発し、事務所は東京都内や神奈川県の保健所の1隅に片袖とヒジかけのない丸い椅子のみで仕事をしたこともありました。以来今日までたゆまざる発展を続けてきた日臨技です。天国ではこれまでの何人かの日臨技役員や多数の会員だった人々が仲良く待っているでしょう。私もその中に入って日臨技を見守ってゆきたいと思います。

日臨技の皆さん、長い間本当にありがとうございました。特別のことがない限り日臨技会員の皆さんへの手紙はこれで終わります。長いこと本当にありがとうございました。天国から日臨技を見守ります。さようなら。

平成30年7月31日

全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 第3回

北海道

2022年10月23日（日）札幌市地下歩行空間（チカホ）にて、当会健康展「検査deフェスティバル」を３年振りに開催いたしました。開催にあたっては「札幌臨床検査技師会」及び「北海道細胞検査士会」の皆様に多大なご協力をいただきました。

今期は頸動脈エコー検査・骨密度検査・認知症検査の体験を中心にがん検診啓発パンフレットの配布と進路相談も併せて行いました。従前はこれらに加えて血圧、肺機能検査、唾液ストレスチェック等も実施し、全項目を体験する形式でしたが、今期は密緩和対策のため整理券を配布し、ブースごとの検査枠数を定め、原則１人１体験という条件で実施しました。しかし、毎年参加を心待ちにされている市民の皆さまもおいでになり、複数項目を希望される方もおられましたが、実務委員の懸命の対応で多くのお断りをすることなく終えることができました。

チカホは多くの人が行き交う場で、物販をはじめ企画や展示が行われておりますが、その中で事前に宣伝していなかったにもかかわらず、当会の催しを見つけ多くの市民の方々にご参加いただけたことは、健康増進・維持に対する関心の高さが感じられました。昨年はパネル展形式で行いましたが、改めて体験会の重要性と市民のニーズを感じた今回の企画でした。

（北海道臨床衛生検査技師会　下津　達也）

和歌山県

和歌山県の全国「検査と健康展」は10月29日（土）10時～16時まで、イオンモール和歌山の３Ｆイオンホールで開催しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により３年ぶりの開催です。今回は理事会の承認を得て、「医師の招聘をせず臨床検査技師のみで運用する」こととしましたので、私も含めてスタッフ全員がプレッシャーを感じていたのではないかと思います。しかし当日の総来場者数は114名と大盛況でした。またハロウィンも重なり、仮装した子供たちもたくさん見受けました。実施した内容はというと、子供たちを例にとると、入場するとそこには子供用の白衣が吊られており、身長に合った白衣を試着します(ここで写真をカシャッ)。先生になった気分で白衣を着たままエコーのコーナーへ移動。そこでは自分の手でプローブを握り、スタッフが寒天で作成した被検物(このレシピは圧巻)にプローブを当て、何が映し出されるか興味津々。見えたのはなんとアヒル・サメ・トマト・オクラ・キウイ。それにしてもトマトは完璧でした。次の移動先は顕微鏡です。白衣を着た子供たちは博士気分で顕微鏡をのぞいていました。続いてPPEで、今度はPPEをスタッフに手伝ってもらいながら試着します。しかしガウンは大人用なので足で踏みつけないような長さに調整してもらってました(ここでもカシャッ)。その格好で模型を相手に検体採取です。なかなかグロテスクな模型だったので子供たちは興味を持ってくれました。一方ひとりあるいはご夫婦で立ち寄られた方は、臨床検査技師の仕事や検査の内容について書かれたパネルを熱心に読み、質問に対するスタッフの丁寧な受け答えも印象的でした。アンケート結果からは「検査の大変さを知りました」「丁寧でわかりやすかった」「いろいろな体験ができて楽しかった」「定期検査が必要であることがより分かりました」という声が多く、目標を達成できたのではないでしょうか。スタッフおよび来場していただいた皆様、本当にありがとうございました。

（和歌山県臨床検査技師会　秋田　豊和）

香川県

香川県では令和４年11月５日（土）と令和５年１月８日（日）の２回にわたり全国「検査と健康展」を開催しました。

11/5（土）に香川県立保健医療大学で開催した「検査と健康展」では来場者は100名で女性が約７割を占め、年齢構成は20歳未満が15名（26.3%）と最も多く、20代と50代もそれぞれ11名（19.3%）が来場され

ました。

近年はテレビや新聞等で多くの健康情報が流れており、地域住民の健康への意識は高まっています。その一方であまりにも多くの情報が溢れているために誤った知識を持っている方も多く、スタッフとの会話で健康への正しい知識を啓蒙できる場面も見られました。来場者からは「毎年楽しみにしていました」「これからの健康を気を付けたい」や臨床検査技師を目指している学生から「より臨床検査技師になりたいと思った」というれしい言葉の一方で、臨床検査技師自体は知っていても、臨床検査技師ができる業務に対する認知度の低さが浮き彫りとなりました。毎年の開催でじわじわと健康への意識向上や臨床検査技師の認知度向上に貢献していると思いますが、臨床検査技師が今後表舞台でさらに活躍するためには、もう一歩前進するための新たな工夫が必要だと思いました。

1/8（日）にショッピングモールのフジグラン丸亀での開催では、来場者は145名でアンケートを行わなかったが、女性の方が多いように見受けられました。健康測定メインで参加した方もいましたが、買い物のついでに立ち寄ったという方が多く、年齢層は60～70歳代の方が最も多かったようです。

今回参加したスタッフ側からも「他施設の方々と交流できたこともあり楽しかった」という意見も聞かれ、新人を中心に若手の技師による参加が多くなってきています。会場を提供していただいたフジグラン丸亀の店長様からも「今回のイベントで、お客さまには健康に関する意識啓発と情報発信をさせていただく絶好の機会となりました。初めてのことでしたので手探りではありましたが、次回に向けて課題も見えましたので、23年度もぜひ開催をお願いいたします」というお言葉をいただきました。

次回は作業療法士会と理学療法士会のコラボ企画となる予定で、今回以上の規模になることが予想されています。次回に向けてしっかりと準備をしていきます。

（香川県臨床検査技師会　太田 安彦）

福島県

福島県臨床検査技師会では令和４年11月６日（日）にイオンモール小名浜４Ｆウエストコートで、全国「検査と健康展」2022を開催しました。実技イベントとしては「貧血チェック」として非侵襲的ヘモグロビン推測値測定と、「顕微鏡で細胞をみてみよう」としての鏡検体験を行いました。貧血チェックでは、測定コーナーで検査技師による測定を終えた来場者に説明コーナーで別な検査技師が説明を行い、測定値が低値であったり、何らかの自覚症状などがある場合は健康相談コーナーで医師に説明していただきました。測定から結果説明まで検査技師が関わることによりきめ細やかな対応ができました。鏡検体験コーナーでは血液像と尿細胞のスライドを準備しました。様々な年代の方が来場しましたが、その中で印象に残った方を紹介します。小学３年生の男児で母親と来場しましたが、母親曰く前夜からとても楽しみにしていたとのことで、当日も朝から「整理券を配っていたら並ばないといけないから早く行こうよー！」と言っていたそうです。顕微鏡を覗きながら目を輝かせて対応スタッフに色々と質問をしている姿を見て開催した意義を実感することができました。時間をかけて鏡検を終え別れを告げたと思った数十分後、再びその男児が現れ「とても楽しかったのでもう一度見ていいですか」と再来してくれたのです。とても心温まる瞬間でした。その他、臨床検査技師の業務紹介コーナーではパネルを用いて説明を行い好評を得ていました。「臨床検査技師」という国家資格を有する医療職種の紹介を目的とする「検査と健康展」に微力ながら貢献できたと思います。

（福島県臨床検査技師会　野木 典久）

京都府

令和４年11月６日（日）に、市民交流プラザふくちやま（京都府福知山市）にて「検査と健康展」を行いました。コロナ禍ということで、短時間で体験が行える内容（頸部エコー検査体験、体組成検査体験、物忘れプログラム体験）の３項目にし、実務委員も例年の半数で実施しました。コロナ禍ということもあり参加数は例年より少ない84人でしたが、参加者からは「３年間待ってました」という声や、多数の喜びの声があり、また、検査結果や内容など幅広い質問が多くあり、意識向上につながったと思います。また、職業体験では症例提示し、便検査、超音波検査、顕微鏡観察を駆使し病気を見つけ出すミッションを持たせ参加者に楽しんで貰いました。年数を重ねるたびに臨床検査技師という名称が更に浸透している印象を感じています。最後に、ご協力いただいた実務委員の皆様方へ心より感謝と御礼申し上げます。

（京都府臨床検査技師会　園田 真之）

当会では国民の皆様に臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2022 秋号（vol.36）にも読後感想として、たくさんの応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。

・臨床検査技師の仕事は医者の陰にかくれた存在だと思っていたが、この冊子を読んで考えが変わった。（長崎県・女性）

・めまいの検査で何人もの技師さんに何回もお世話になりましたが、どの方も優しく親切で丁寧に接してくださり感謝しています。（兵庫県・女性）

・病院という場所は色々な方が働いていて一人一人の力の元に元気な体に戻れるのだと思いました。（宮崎県・女性）

・はじめて手に取りました。今まで気づかずにいてちょっと損した気分です。（兵庫県・女性）

・臨床検査技師は白衣姿で試験管や顕微鏡を見つめるイメージでしたが、ピペットを読んで、まだ私の知らないお仕事を受け持っていることを知り、次号もぜひ読みたいと思います。（沖縄県・女性）

・今まではただ数値を見て安堵したり不安になったりしていましたが、ピペットを読んでもっと理解を深めたいと思いました。（兵庫県・女性）

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

https://www.jamt.or.jp/books/pipette/

Fax: 03-3768-6722

mail: pipette@jamt.or.jp

（編集後記）10年に１度の最強寒波で大規模な交通障害や歩行者の転倒・交通事故など全国で混乱に見舞われました。交通事情で出勤できないスタッフの対応など皆さんも大変だったと思います。これからも寒い日が多いでしょうから体調管理にお気を付けください。

さて今号のトップは、医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）の様子を掲載しました。コロナ禍のため、少人数制の開催となりましたが学んだ安全管理の手法を現場に役立てていただきたいと思います。

（今川）